

第1期上下水道事業経営委員会（第1回）の主な質疑

平成26年7月15日（火）14時00分～16時20分

上下水道局3階301会議室

質 疑		答 弁	
【1 平成25年度決算について】			
A 委員	水道事業の水道利用加入金が前年度に比べて30%減と極端に減収しているが、単価の変更等あったのか。	上下水道局	<p>加入金は口径別に金額を設定しており、単価の変更等は行っていない。</p> <p>また、前年度はアパート等が多く建設されたことや、西部運動公園などの大口径の新設加入金が多かったため、今年度、加入金が減収となっている。</p>
A 委員	企業債利息の負担が水道事業費用全体の6%と、一般企業と比べるとかなり負担が大きいですが、企業債の利率と借入れ状況はどうなっているか。	上下水道局	<p>企業債については、地方公共団体金融機構と財政融資資金で、借入れ期間は30年となっている。これまで高金利の繰上償還を行い企業債残高の削減に努めてきており、利率が5%以上の企業債は償還済みである。</p> <p>なお、今年度は1.4%の利率で企業債の借入れを行っている。</p>
B 委員	専用水道の実情と、経営に与える影響は。	上下水道局	<p>平成25年度にイオンモール高岡が専用水道に切り替えられ、前年度と比較して1,200万円の減収となった。今後、専用水道への切り替えが進むことも考えられることから、より一層水道のPRに努めたい。</p>
B 委員	受水費について、子撫川は3年契約、和田川は毎年単価が変動しているが、なぜ違うのか。	上下水道局	<p>子撫川は受水団体の責任水量制となっており、受水単価、水量は県と受水団体間の協定により決定している。平成25年までは3年契約としていたが、平成26年からは5年契約とした。</p> <p>また、和田川の単価については、毎年実績をもとに精算金額としている。</p> <p>単価に関しては、県の浄水場を建設した時期や経費などにより相違がある。このような中、子撫川の単価が高くなっている。</p>
C 委員	水道事業・工業用水道事業・簡易水道事業で別々の決算となっており、全体としての経営状況が分かりにくい。	上下水道局	<p>工業用水道については水源や処理方法が違い、飲料水を扱う水道事業とは別に扱う必要がある。水道事業と簡易水道事業については、平成28年度には統合する計画である。</p> <p>また、水道事業は厚労省、工業用水道事業は経産省、下水道事業は国交省と国の管轄も違うため、各事業を統合することはできない。</p>

質 疑		答 弁	
C 委員	もっと水を売るといような経営展開はできないか。	上下水道局	平成 25 年度については、工場などの大口の需要者を対象に水道事業の PR を行った。上下水道の統合に伴い、今後は上下水道事業をより身近に感じてもらえるような PR を行っていきたい。
C 委員	海外への事業展開については。	上下水道局	東京都や大阪市など、歴史が古く規模も大きい水道事業体では様々な技術やノウハウを持ち、海外進出を行っているが、高岡市では難しい。
D 委員	基幹管路の耐震化の進捗状況が良くないが、間に合うのか。	上下水道局	老朽铸铁管の更新を優先して進めてきたが、平成 23 年度に基幹管路の大きな漏水事故があり、平成 25 年度から本格的に基幹管路の更新に着手している。現在計画的に更新を進めているところである。
【 2 高岡市下水道事業について】			
E 委員	上下水道事業の中で、一般行政と地方公営企業それぞれに担うべき部分があると思うが、見解は。	上下水道局	水道事業において、水源の問題については広域的な問題として、県や国の方で対策を取ってほしい。今後、水需要が減少する中でどう経営を維持していくかが重要な課題となっている。 下水道事業については、雨水処理には基本的に公費による処理が必要となる。また、下水道管布設後、各家庭の工事には時間がかかるため、投資の回収がすぐにできない。そういった点を一般行政と協議の上、経営を持続させていける仕組みを考えていかなければならない。
C 委員	雨水を利用して、水源や飲料水に利用することはできないか。	上下水道局	雨水は農業用水等に利用されている。各家庭に雨水貯留槽を設置する場合、当局では補助金制度を設けている。
B 委員	下水道事業の予算概要について、もう少し細かく明示してほしい。	上下水道局	次年度予算の中でもう少し細かく明示したい。
D 委員	合流式の管が入っている地区に関しても、将来的には分流化する予定か。	上下水道局	新しく下水道管を通すスペースが無く、分流化は難しい。合流式の地区に関しては、汚水が川に流れないように努めていく。